

【研究内容 クラブ活動】

大曲仙北地区のクラブ活動の現状と今後の在り方 ～さらに充実したクラブ活動をめざすために～

大曲仙北特別活動研究会クラブ活動研究推進チーム
秋田県 仙北市立生保内小学校 教諭 黒澤 洋英

1. はじめに

大曲仙北地区（仙北市・大仙市・美郷町 小学校 28 校）では、「子どもたち自身がやりたいことができるクラブ活動」を目指し、6 年生が先に諸条件を考慮の上、設置するクラブを決定し、4・5 年生に対し活動についてプレゼンを行い希望者を募るという「この指止まれ方式」を推進してきた。しかし、推進の呼びかけから数年が経過し、この取組が難しくなってきたという状況や、児童数、職員数の減少や学校統廃合などによる学校の実情に合わせたクラブ活動についての課題が聞かれるようになってきた。そのため、クラブ活動のねらいを達成するには、どのように計画・実践していけばよいのかを探る時期に来ていると感じている。

そこで本研究会では、研究推進チームを組織し、本主題を設定して、本地区の小学校 28 校のクラブ活動の実態を調査・分析することにした。各学校の実情を把握し、成果と課題、実践事例を共有することによって、各校のクラブ活動を活性化させることにつながると考え、研究を進めていくことにした。

2. 研究の概要（アンケートの結果と考察）

- ・調査内容：「学校におけるクラブ活動アンケート」（教師と児童）
- ・実施時期：令和 7 年 7 月初旬（教師）・8 月下旬（児童）
- ・回答者：大曲仙北地区小学校 28 校のクラブ活動担当者
小学校 4 校（抽出校児童 4、5、6 年生 287 名）

（1）設置クラブの決定と指導者について

教師が決定	教師と児童で決定	教師が指導	地域・外部の方が指導
57.1%（16 校）	42.9%（12 校）	57.1%（16 校）	42.9%（12 校）

- ・教師主導で設置クラブを決定している学校が半数を超えている。
- ・教師と児童で相談し、児童の思いや希望を汲みながら設置クラブを決定している学校が 4 割程度はある。
- ・職員数の減少等を補うために、地域の方が加わっている学校が 4 割程度ある。

（2）所属の決定について

希望アンケートで決定	児童が自分たちで決定
85.7%（24 校）	13.3%（4 校）

- ・希望アンケートを集計し、教師が所属を決定していることが多い。
- ・児童がお互いに折り合いを付けながら所属を自分たちで決定している学校は少ない。

（3）クラブ活動に対する児童の思い

	平成 27 年度	令和 7 年度
好き、どちらかといえば好き	98%	99.3%
（理由）活動がおもしろいから	80.4%	66.8%
（理由）いろいろ覚えたり、できたりするから	47.5%	35.0%

- ・10 年前から児童がクラブの時間を好きであることは、変化していない。

- ・活動自体のおもしろさについては減少していることが分かる。

今回の調査を踏まえた、当地区のクラブ活動の取組の重点事項

○やりたいことができるクラブ設置の工夫

○自分で折り合いを付けられる所属の決定の工夫

(4) 特色あるクラブ活動への外部指導者・地域指導者の活用について

太鼓、和太鼓（2校）、白岩ささら・おやま囃子・長野ささら（3校）、将棋（3校）、茶道（2校）、モルック（1校）、草木染め（1校）
工作（1校）、伝統文化（1校） 世代を超えたスポーツ交流（1校）等

○成果

- ・教師ではできない専門的な指導、様々な分野の活動ができる。
- ・自分たちの住む地域の魅力にふれることができる。
- ・地域に根差した文化、技術を専門性の高いままに指導してもらえる。
- ・教師ではない外部の大人と活動を通してふれ合うことができ、地域との交流の機会となっている。



白岩ささら

△課題

- ・クラブの内容が固定化され、マンネリ化につながる。
- ・子どもにとって本当にやりたい内容であるかどうか。
- ・子どもの人数が減ってきて、所属希望が少ない内容もある。
- ・求める人材がいるかどうか。その予算などはどうするか。
- ・外部講師が中心となって活動を進めすぎ、児童の主体性が損なわれる場合がある。



スポーツ交流

- 子どものやりたいことの実現に向けて、外部指導者、クラブ活動サポーターをどのように活用していくか。
- 伝統文化の継承等、地域の願いに応えながら学校としてできることを模索していく必要がある。

3. おわりに

当地区のクラブ活動状況をアンケートをもとに把握し、データを集約分析して各校に情報発信し、共有ができたことは本研究会として大きな成果である。これからも、児童のさらに充実した活動につながる方法について、事例についての情報交換等を行い、各校での改善につなげていきたい。

今後はさらに学校の統廃合が進むことも考えられ、児童の主体性を生かした活動につながるような環境作りや各校の特色を生かした取組は喫緊の課題である。児童にとって充実したクラブ活動になるよう、地区全体として一体的に取り組んでいきたいと考える。